

福島県飯館村の子供たちがお寺でホームステイ

今回で3回目となる高岡教区ホームステイ事業が、八月九日より三泊四日の日程で実施された。原発災害で避難生活が続く福島県飯館村吉倉宿舎から、子供三十名を含む総勢四六名、十二家族のメンバーが来県、教区内の十二ヶ寺（十組）に分宿、暫し富山の自然に触れ、またホストファミリーとの交流を深めた。

早朝、福島市を出発した一行は七時間の移動を経て西本願寺高岡会館に到着、礼拝堂での交流会では、西岡教務所長の歓迎の挨拶に続いて、吉倉宿舎の嶋原自治会長が挨拶、「我が家に帰



が家に帰って来たような気持ちで、大変うれしいです」と述べられた。昨年に続いて来県した子供たちは、

一年ぶりに会うホストファミリーや教区のスタッフとの再会を笑顔で喜んでいた。また、十一日には氷見市内で「忍者ハットリくん」のモニュメントが並ぶ「まんがロード」などを見学、前日の台風の影響で雨や風が残る不安定な気候のなかでも元気に観光を楽しんだ。また、午後からは、島尾海岸での海水浴を楽しんだ。参加された親御さんからは「本当に楽しみにしていたので子供たちを海で安心して遊ばせてやれてよかった」といった感想が聞かれた。

この事業も三回目となり、各組での交流がより深まっていることを伺わせた。一行は十二日まで滞在、出発前には会館で最後の交流会が開かれ、教区からのお土産や、門信徒の方からの寄付金等の贈呈が行われ、帰路に就かれた。

企画運営を行った教区災害救援専門委員会（織田隆夫委員長）では、今後も「支援米事業」「年末の餅つき」と連動して交流を深め、さらに充実するため協議を続けることとしている。

9月3日付「『法統継承に際しての御消息』披露 総局巡回 2014(平成26)年度公聴会」のご案内、開催期日の年号表記に誤りがありました。

訂正し、深くお詫びいたします。

(誤)2013(平成25)年

(正)2014(平成26)年



『北陸ブロック講員研修会』が高岡教区担当にて開催

今年度『北陸ブロック講員研修会』が去る八月二十日（水）から二十一日（木）にかけて『磯はなび』を会場に、北陸四教区の講員百五十一名が参加して開催された。この研修会は本山参拝志納部主催で講社の会員を対象に講社組織の強化を計るとともに、積極的な講社活動を期することを目的に北陸四教区持ち回りで毎年開催されているもので、今年度は高岡教区講社連盟が担当。

開会式では主催者を代表して和治教文本願寺執行が、「今回の研修会が、講活動のあり方について考える機会にしたい

いただき、更なる講活動の継続と活性化に資して

いただきたい」と挨拶。続いて西岡孝了教務所長と瀧田久逸教区講社連盟会長が担当教区を代表して挨拶を行った。

その後、公文名眞師の法話があり、講の歴史

にふれながら、「宗門における講というのは、お互いにご法儀を喜び、念仏を相続するという、信心を確かめあう寄り合いという意味合いが強くなった。そして講社は本山・一般寺院、寺族・門信徒という縦のつながりではなく、寺族・門信徒も共にという横のつながりである。その横のつながりこそ宗教の生命」と、講社とはどのような組織なのか、そしてどのような役割が求められているのかについて話された。

夕食懇親会では、瀧田会長自らが大正琴を奏で、関野組称念寺の皆さんのコーラスや日本舞踊が披露されるなど、和やかな雰囲気なかで親睦を深めた。

二日目は『正信偈』のお勤めの後、前日に引き続いて講師から、かつて真宗門徒にとつて信心がいかん人生・生活に根づいていたかということについて実話を交えながらお話いただいた。最後に協議会が持たれ、各教区より参加した講員それぞれの講が抱える問題点を出し合いながら、現代社会に適応した講活動のあり方についての意見交換がなされ、二日間の日程を終了した。



教務所では今年度もカレンダーの注文を受け承ります。

お電話で注文頂ければご寺院宛に配達を致します。

担当の高島までご連絡ください。

法語カレンダー	・・・150円
ほのぼのカレンダー	・・・150円
月々のことば	・・・700円
心に響くことば	・・・120円

寺族青年会(清水了渉会長)では、8月24日(日)午後2時より、教区内の御寺院様の物品拠出協力により、ダーナ・バザーを無事行うことができました。

尚、バザーの売上金は490,717円となり、JVC(日本国際ボランティアセンター)・県内の各福祉作業所等へ寄付をさせていただきます。

また、このバザーでは、高岡龍谷高校の生徒や龍谷大学宗教教育部の方にもお手伝いをいただきました。

ご協力くださいましたすべての皆様方ありがとうございました。

新会長に石灰氏を選出

「門徒総代会・幹事総会・研修会」

八月二十九日（金）午後二時より、庄川町の越中庄川荘を会場に、教区門徒総代会の「幹事総会・研修会」が開催され、前年度の行事報告・決算、今年度の行事計画と予算がそれぞれ承認・可決されたほか、任期満了にともない、役員改選が行われ、石灰治一さん（新湊組妙蓮寺）が新会長に、また、副会長には二上桂介さん（水波組）と能登谷久公さん（氷見東組）が、監事には齋藤昌英さん（川上組）・小西邦男さん（射水組）がそれぞれ選出された。

続く研修会では、岡西法英師（五位組教願寺住



職・教区会議長）が「法統継承に際しての消息」をいただいてとのテーマで講演された。岡西師はじめ

に「退任に際しての消息」と「法統継承に際しての

消息」を読み上げられ、先の法規の改訂について、前門さまは大変な危機感を持っておられた。宗派と本願寺を分けることで、本願寺自らが一般寺院の先頭に立っていけるように予算と権限をもたせたものだろうと思っている」と。また「法統継承に際しての消息」について「ご消息に書かれてあることについては、私からあらためて申し上げる必要はない。浄土真宗はいくつかの転換期を経て、拡大し縮小もしてきた。現在は縮小の末期ではないかと思う。今後の展望をもって、真宗の果たすべき役割をしっかりと見据えていかねばならない」と述べられた。

教区門徒総代会では、共通の課題意識を持てるようにと「幹事総会・研修会」には各組々長方にもご案内し研修をおこなっている。

第51回本山杯野球大会結果

8月31日（日）高岡龍谷高校グラウンドにて、本願寺野球部・富山教区野球部と高岡チームが三つ巴での試合を行いました。結果は・・・

本願寺チーム 2勝

富山チーム 1勝 1敗

高岡チーム 2敗となりました。

尚、本山杯は富山教区野球部が高岡教区チームに勝ち、優勝いたしました。

また、前日には、高岡で懇親会を行い、互いの健闘を誓い合い夜遅くまで、懇親を深めていました。

ハンセン病訴訟勝訴 13周年・沢知恵さん弾き語りコンサート開催について

別紙チラシにあります様に、来る9月26日午後6時半よりハンセン病問題ふるさとネットワーク富山が例年実施しています熊本地裁判決の記念シンポジウムが開かれます。前売りチケット（1枚・1500円）を教務所にて販売しておりますので、是非、お誘い合わせの上、ご参加下さい。

公開講座開催について

別紙チラシにあります様に、9月20日午後1時半より寺院女性会連盟研修会（麻生登美委員長）が公開講座で開催されます。

「仏教讃歌と法話の集い」というテーマで教区コーラス『瑠璃の響き』による讃歌と福井教区女性寺住職 霊河秀樹（よしかわ ひでき）師による「歌と法話」が開催されます。

是非、お誘い合わせの上、ご参加下さい。

二〇一四年度仏教婦人会連盟・寺院女性会連盟合同研修会

仏教婦人会連盟と寺院女性会連盟では、年に一度合同で研修会を行っています。本年は、雨晴温泉磯はなびにおいて一泊二日で研修会を行いました。この様子を寺女連盟書記の平野佳子さん（系岡組）にご報告をいただきました。

八月二十七・二十八日と催された仏婦・寺女合同研修会に参加させていただきました。

一日目は『お寺は必要か?』という寺に身を置く者にとって、とても重いテーマで行われました。

講師に朝比奈裕子師を迎え、ファシリテーションという方法で進められましたが、私自身この様な形で行われる研修は初めてのことで、どうなる事かと思っております。



おりました。しかしながら実際に行ってみると、重たいテーマであるにもかかわらず、意見がスムーズに出されました。

これはテーマに沿っていけば、どの様な意見でもい

かしながら実際に行ってみると、重たいテーマであるにもかかわらず、意見がスムーズに出されました。これはテーマに沿っていけば、どの様な意見でもい

い」「人の意見を批判しない」「質より量と思

いついた事をたくさん出して

く「この事がいつもの話し合い

法座より気持ち加者みんながら

意見が出やすい、和気あいあいとしたものになったように思われます。

参加者からは、「門徒とお寺との関係を深めるために普段から出入りしやすい、話しやすい関係を築いていく事が大切」「寺に住まう者はしっかりと法義を学んで欲しい」などという意見が出され、心して聞かせていただきました。

二日目は『御同朋のあり方を考える 儀礼・習俗を通して』をテーマに公文名眞師を迎えての研修でした。

儀礼・習俗が近年ますます、簡素化していくのはどうしてか。生活優先、家族に迷惑をかけない等の理由が法座の場でも出ました。

しかし、先生のお話の中で、「自分の思い、理解

が中心、理屈抜きですということが出来なくなっているのではないか。お念仏が称えられないのもこのようなことではないか。わからずとも身をもって行っていくうちに、その作法や儀礼の中に入められている意味をわかっていくということがある。わからない事がある事を知る。後でわかる事がある。そこにこそ大事なことがある」とお聞かせいただきました。

儀式・儀礼などを、私たち年長者が次世代に伝える場として大切にしていって、とても考えさせられる研修会でした。



第2連区（富山・高岡・石川・福井・岐阜・東海）行事報告

各教化団体では、連区行事を行っております。これは、自己の研鑽もありますが、その団体が抱える様々な問題に対して、教区を超えて問題を共有していくねらいもあります。以下、8～9月に行われた行事です。

- 8月20～21日 北陸ブロック（富山・高岡・石川・福井）講社大会（高岡担当）
- 8月23～24日 保育連盟まことの保育大学講座（岐阜）
- 8月27～28日 ビハーラ協議会（石川）
- 9月6～7日 真宗青年のつどい（仏青・岐阜）
- 9月8～9日 少年指導者研修会（高岡）
- 9月9～10日 布教団研修会（石川）

御同朋の社会をめざす運動のコーナー

「二〇一四年度 非戦・平和公開学習会」を終えて

ヤスクニ問題専門委員会でご企画・開催して参りましたこの学習会は、今年度で公開の形式を取るようになってから五年目を迎えました。今年度はテーマを『私と国家と宗教』とし、五月から毎月一回、計四回にわたり学習会を開催致しました。簡単にはですが、学習会の内容を伝えたいと思います。

首相の靖国神社参拝問題について

（発表者：山岸智史氏「ヤスクニ専門委員長」）

○靖国神社の歴史 ○靖国神社の正確と問題 ○首相の靖国神社参拝が憲法に反するという問題 ○死の意味づけとその危険性 憲法を改める動き

信教の自由と神棚

（発表者：廣本勝男氏「ヤスクニ専門委員長」）

○明治憲法下での信教の自由 ○現在の憲法下での信教の自由 ○なぜ神棚を問題とするのか ○神棚の歴史 ○カタカナのヤスクニ表記について

フィールドワーク「廃仏毀釈の影響を受けた寺院へ」

○見学場所・首だけ大仏（長慶寺）・中教院跡・西別院・東別院

○講師 石川正穂氏（真宗大谷派富山教区玉永寺住職）
講義内容 ・明治の廃仏毀釈はなぜ起こったのか ・富山藩の合寺令について

自由討論（まとめ：飛鳥寛静氏「ヤスクニ専門委員」）

各学習会で頂いた感想や意見を受けての報告、復習をしながら

らの自由討論。

ここからは、各回学習会に参加して感じたことを述べたいと思います。

靖国神社自体の問題性もあるのですが、それを知らないことの怖さや先の戦争における「私たちは被害者であると同時に加害者の末裔でもある。」（映画監督の森達也さんの言葉）という自覚と意識を考えざるを得ないように思いました。

門信徒の方がここまで踏み込んでこのテーマで発表して下さったことに頭が下がる思いがしました。分かっているつもりになっていたことにあらためて気付きました。

廃仏毀釈の影響が富山藩にあったことは歴史の知識としての認識しかなかったように思うのですが、このフィールドワークに参加して気付いたことは門信徒の方々の意志とは関係のない国策によってしかも短期間に相当な勢いで押し進められたということです。当時の門徒の方々の気持ちを考えるとやり切れない気持ちになりました。

この学習会は、親鸞聖人のみ教えを歪め、戦争に協力した真宗教団の過ちを私の問題として受け止め、二度と同じ誤りを起こさないためにさまざまな角度からその問題をつめ、非戦平和の願いを学び、誓うものです。最後の自由討論に参加された方々の意見を聞いたり、書いて頂いた感想をみるにつけ、私が仏教徒として、真宗門徒としてどれだけ自分の問題として今学習会で学んだことを受け止めることが出来たのだろうか、考えさせられました。

【教区ヤスクニ問題専門委員会委員 明神慈子】

これからの日程 (9 / 1 9 ~ 1 0 / 2 0)

9月		北陸同推研修会(富山)
19		
20	寺女研修会(2回目)	
24	連区仏婦大会報告会 長寿苑ビハーラ活動	
25	ヤスクニ問題専門委員会	
26	総局巡回・公聴会 ハンセン病問題シンポジウム	
28	五位組長光寺法要伝達	
29	僧侶研修会(3回目) 高寿会研修旅行	連区仏壯協議会 (~30・石川)
30	長寿苑ビハーラ活動	
10月		
1	福光教会会計監査 雨晴苑ビハーラ活動	
2	井波別院会計監査	
3	高岡教務所会計監査	
4	藤園苑報恩講 講社連盟役員会	
6	骨董市(~8・会場貸し)	
7		
8		連区門徒総代研修会 (富山教区)
9		
14	常例法座	
20	仏婦連盟東日本大震災支援活動(~22・宮城県)	



ラジオ放送~西本願寺の時間~

『みほとけとともに』

北日本放送(KNB)・73.8kHz.
毎週土曜日(本山制作)午前6:15~6:25
第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00~6:10

9/13(土): 鍋島 直樹氏(兵庫県・真光寺)

「生きていかなければならないこと」

9/14(日): 瀧本 圭氏(富山教区・祐教寺)

9/20(土): 鍋島 直樹氏(兵庫県・真光寺)

「生きたいと死にたいの間で」

9/27(土): 鍋島 直樹氏(兵庫県・真光寺)

「私を支えるもの」

9/28(日): 竹中 了祥氏(富山教区・妙順寺)

10/4(土): 鍋島 直樹氏(兵庫県・真光寺)

「死んでいかなければならないこと」

10/11(土): 未 定

10/12(日): 未 定(高岡教区)

10/18(土): 未 定

【西本願寺高岡会館10月の常例法座】

ご講師: 未 定
(高岡教区)

ご講題: 『未 定』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱(175袋) 8,300円

・大箱(36袋) 2,300円

・1組(10袋) 500円

お申込み先は・・・〒933-0003 高岡市能町1298

耳浦 康真(本誓寺) Tel.&Fax.(0766)23-9822

編集後記

『死はずっと遠いところにあるかと思っただけど、すぐ隣にあるもの』
これは、NHKで朝に放送されている「花子とアン」という番組
で戦場から帰ってきた女性の言葉です。この番組は現在、第二次
世界大戦中の日本を描いています。改めて当時の日本は異常な
状態であったなと感じることであります。

しかし、この女性の言葉は、私達が今一度考えていかなければ
ならない言葉なのではないかと思えます。

いつ訪れてもおかしくないはずの「死」に対して、なぜか遠い
先のように感じてしまっているような現代ですが、本当は、すぐ
隣にあるものということを意識した日常を送っていかなければな
らないのだと考えさせられた言葉(セリフ)です。

(担当)